

於：第5回 山口大学国際シンポジウム

中国5県における 大学とJICAの協力の概要

2011.7.19

JICA中国 市民参加協力課

有田敏行

0. はじめに - JICA中国の役割

【技術協力】

- ・ 研修員受入43コース、331名(2010年度) → 研修業務課

【国民等の協力活動】→ 市民参加協力課

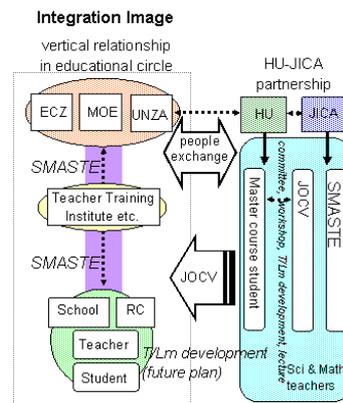
- ・ ボランティア派遣(募集・帰国後支援)
- ・ 開発教育支援事業
(国民等の協力活動に関する知識の普及国民の理解の増進)
 - ① 国際協力出前講座2010年度実績194件(14,666名)
 - ② 施設訪問2010年度実績42件(1,681名)
 - ③ 教師海外研修(2011年度はネパールへ8名派遣)
 - ④ 高校生国際協力体験(夏休みと春休み各1回、1泊2日)
 - ⑤ 国際理解教育研修会 ⑥ 中高生エッセイコンテスト 他
- ・ 事業広報
 - ① 「なんとかしなきゃ！プロジェクト」(<http://nantokashinakya.jp/>)
 - ② 国際協力・交流イベントの共催、後援
 - ③ メディア・著名人の海外現場派遣 ④ 国際協力レポーター
- ・ NGO、自治体との連携
 - ① 「草の根技術協力事業」(パートナー型、地域提案型、草の根支援型)
 - ② NGO向けスキルアップセミナー
- ・ 民間企業との連携・BOPビジネス等 → 総務課

1. H22年度 域内大学 研修員受入れ実績

コース名	タイプ	人数	主な実施機関
南東欧地域産業振興政策	地域別	5	県立広島大学
持続可能な地域観光振興	集団	12	広島県商工労働局、(国)広島大学大学院地域経済システム研究センター
乾燥地における土地・水資源の適正管理と有効利用	集団	9	(国)鳥取大学農学部・乾燥地研究センター
アジア地域授業研究による教育の質的向上	地域別	10	(国)広島大学国際協力研究科
アフリカ地域(仏語圏)INSET運営管理	地域別	9	(国)広島大学高等教育研究開発センター、広島県教育委員会
中南米地域中小企業振興政策	地域別	7	県立広島大学
アフリカ地域研究を基礎とした教育の質的向上のための政策形成能力開発	集団	5	(国)広島大学CICE
アフリカ地域(英語圏)INSET運営管理	地域別	17	(国)広島大学国際協力研究科、広島県教育委員会
食品加工・保全技術	集団	4	県立広島大学、独立行政法人酒類総合研究所他
アフリカ地域(英語圏)INSET運営管理 マラウイ限定	地域別	14	(国)広島大学国際協力研究科、広島県教育委員会
初等教育行政の改善	国別	2	広島大学
ガーナ理科教授法改善	国別	12	(国)岡山大学大学院教育学研究科
ザンビア理科教育カリキュラム改訂能力向上支援	国別	5	広島大学
アフリカ初中等教育の質的改善(長期)(平成22年度開始分)	長期(課題別)	1	(国)広島大学IDEC
ナイル川流域農業開発・環境保全支援(長期)(平成22年度開始分)	長期(課題別)		(国)鳥取大学農学部
財務経済計画省経済官僚キャパシティ強化1	長期(課題別)	1	(国)広島大学大学院
アジア初中等理科教育の質的改善(長期)(平成22年度開始分)	長期(課題別)	5	(国)広島大学IDEC

2. ボランティア派遣 (広島大学IDEC「ザンビア・プログラム」)

- ・ 広島大学国際協力研究科は「開発途上国の多くの問題解決に取り組むことができる高度専門職業人の育成」を目指し、独立行政法人 国際協力機構 (JICA)の青年海外協力隊(JOCV)と連携した特別教育プログラム(通称「ザンビア・プログラム」)を開発しました。
この特別教育プログラムは、学生が博士課程前期に在学中の2年間、青年海外協力隊員 (JOCV)として派遣国であるザンビア共和国で活動し、指導教員および本研究科教員の指導を受けながら、開発協力現場での実践を通じ、開発協力に関わる人材としての資質・能力を高めることを目的としています。
- ・ このザンビア・プログラムは、次のような内容のプログラムを組んでいます。
(1) 青年海外協力隊(以下、協力隊)としてザンビアに赴任し、主に現地の学校や現職教員センターにおいて授業実施や教材開発を行いながら、教育分野における国際協力、開発途上国の支援のための活動に従事します。
(2) 現地での協力隊活動と平行して、本研究科教員の指導を受け、帰国後に現地で学んだ教育協力の理論と実践の成果を修士論文にまとめることで、修士の学位が取得できます。
(3) 指導教員や本研究科教員の指導と、現地での集中講義を活用することで協力隊参加期間(訓練を合わせ2年と2ヶ月)を含め、標準で3年6ヶ月で修士課程を修了できます。
- ・ 実績: 帰国13名、派遣中3名、派遣前訓練中1名(?)
(広島大学HPより)
(* 協力隊の「日本語教師」出身大学は広島大が全国1位。)



3. その他（協定の状況等）

(1) 大学-JICA中国間協定の状況

- ・山口大学(H22.6.1から5年間)
長期研修員・日系研修員の受入れ、連携講座
- ・広島大学(H22.7.1から5年間)
研修コース実施、長期研修員受入れ、連携講座、ザンビア・プログラム、委員会

(2) 有償資金協力による留学生等受入れ

山口大、広島大、岡山理科大・

(3) その他：円借款事業「中国・北京浄水場建設事業」事後評価、

- ・技術協力プロジェクト「バングラデシュ・小学校理数科教育強化計画」「カンボジア理科教育改善計画プロジェクト」(以上 広島大)、
- ・草の根技術協力事業(地域提案型)「ベトナム・医療技術支援」(岡山大学病院/岡山市)等

(4) 連携講座「四国・国際協力論」

四国の4大学(徳島大・香川大・愛媛大・高知大)で、
四国NGOネットワーク(SNN)、JICA四国の三者で実施。
2単位認定、市民に公開も。

① バングラデシュ国小学校理数科教育強化計画

- ・ 2004年10月に広島大学が株式会社パデコと共同受託した国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクト「バングラデシュ国小学校理数科教育強化計画」は、同国上位計画((PEDPII)の傘下で初等教育現場における「教育の質の向上」をめざす取り組みです。国立大学法人が受託した技術協力プロジェクトとしては日本で初めての試みで、広島大学は民間会社パデコと共同で受託しました。
- ・ 本プロジェクトは初等教育全体をにらみ、国立初等教育アカデミー(NAPE)などの教員研修機関、そして小学校における教育の質の向上を目的としています。主な活動としては、研修カリキュラム、教材(教育パッケージ)の開発、評価法の提言、関係機関や教員間の連携強化などです。このような取り組みに対して本学教員は、現地への派遣指導、日本研修の受け入れ、そして日常的に専門的な見地からのアドバイスという三点の活動を行っています。

(広島大学HPより)

② カンボジア理科教育改善計画プロジェクト

- 2008年9月に広島大学が株式会社パデコと共同受託した国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクト「カンボジア理科教育改善計画プロジェクト(STEPSAM2)」は、初等および前期中等教育段階における「理科授業の質の向上」をめざす取り組みです。具体的には、現地における教員養成校(NIE, PTTC, RTTC)の校長や教員に対して技術協力をを行い、教員養成の質の向上を図りながら、同時に現職教員に対する研修に対するベストプラクティスモデルを提示することを意図しています。
- 本プロジェクトは初等・前期中等教育をにらみ、国立教員養成所(NIE)及び地域教員養成校(RTTC)、初等教員養成校(PTTC)などの教員研修機関における教師教育の質の向上を目的としています。まず、プノンペン市内にあるNIEを拠点にし、その教官を中心にナショナルトレーナーを選定し(物理、化学、生物、地学、初等理科、教育行政各4名)、彼らに対して教科内容知識、指導法、指導案作成などの技術的インプットを行っています。
- 詳細は以下のHPをご覧ください。
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/edupjt01/>

(広島大学HPより)

Ⅱ 問題提起(私の期待)

1. キーワードは「連携」

- ・東日本大震災後、コミュニティの重要性が再認識
- ・復興には地域間の協力も不可欠

(蛇足ながら)

これまでは内向きといわれ、国際協力には逆風が吹いていたが、復興が軌道に乗れば追い風になる可能性も。

2. 連携の三層構造(地理的な視点)

- ① 地元山口(ex.山口国際協力の里ネットワーク)
- ② 地域ブロック
- ③ 海外とのネットワーク

海外とのネットワークの事例

広島大学の国際大学間ネットワーク事業のユネスコ認定について

- 平成16年から実施してきた、広島大学の「教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話」(A-A Dialogue)事業が、ユネスコのUNITWIN事業として正式に認定されることとなり、4月15日(木)、ユネスコの認定に係る合意文書に正式に署名しました。
- 「教育開発のためのアフリカ・アジア大学間対話」(A-A Dialogue)事業は、広島大学教育開発国際協力研究センターを中心として、国際協力機構(JICA)、国連大学、文部科学省などの協力を得て、アフリカ12カ国・16大学、アジア6カ国・12大学とネットワークを形成し、教育開発のための国際共同研究や教員・学生交流を実施する事業です。今回その地道な実績が認められたもので、特に異なる地域しかもこれまでにほとんど見られなかったアフリカとアジアの大学間の連携事業であることが高く評価されました。
- 合意文書への署名は、ネットワーク参加28大学を代表して浅原利正広島大学長が行いました。認定期間は4年です(更新が可能です)。現在日本でUNITWINとして認定されているものは、今回のものを含め4件目(京都大学1件、早稲田大学2件)です。
この認定により、これまで単なる個々の大学間ネットワークであったものが、国際的に正式に認知を受けた大学間連携事業として一層の飛躍が期待されます。

(UNITWIN事業とは)

ユネスコが実施するUNIVERSITYTWINNING事業の略称。平成4年の第26回ユネスコ総会で採択された、UNESCOによる大学間ネットワークの認証制度のこと。世界中の異なる地域の大学及び高等教育機関の教授、研究者、管理者が共同で活動することにより、相互間の密接な協力、交流とネットワーク、その他関連する活動を通して迅速な知識移転を促進し、能力開発や人材育成を促進しようとするもの。現在世界で67のネットワークがUNITWINとして認定されている。

(広島大学HPより)

山口大学への期待

..たいへん僭越で、おこがましいですが..

- (主に大学間を念頭に) **地域連携のリーダーシップ**を。
- 中国5県(+四国4県)のみならず、九州との結節点にあることから、**中国と九州2つのブロックの架け橋役**を担うべき。さらに、
- 得意分野においては、**地理的な垣根に捉われず、日本そして世界をリードする存在になることを期待**(研究のみならず**実践面**でも)。

* 私どもJICA中国も可能な限りお手伝いをさせていただき所存です。

(ご清聴いただき、有難うございました。)